

# Offshore

6  
1988

社団 法人 日本外洋帆走協会発行 No. 159/300円

昭和63年6月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和52年7月21日第三種郵便物認可



関東支部フリート対抗レース  
艇別成績1位のくWILLく  
写真提供:ヨッティング

関東支部

# フリート対抗チームレース

報告：レース委員長 石井正行

写真撮影：関東支部広報委員会



優勝 シーボニアフリートチーム





## 2位 遊子フリートチーム



関東支部フリート対抗チーム・レースは5月14日より29日まで、15日間にわたり相模湾で開催された。レースは比較的安定した天候に恵まれ、トップ・レーサーによる激戦が展開された。特に、ケンウッド・カップに情熱を燃やしている〈SLEEPER〉〈MARENROW〉〈海太郎〉〈KARASU〉〈青海波〉〈MAGIC〉等のレース展開に関心が集まり、関西の強豪〈WILL〉、好調の〈CAETLA〉、注目の〈SUPER WITCH〉等の活躍も期待された。

レース結果は別表の通り、〈MARENROW〉〈SYLPHIDES〉〈SUPER WITCH〉のシーボニア・チームが着実に得点を重ねて優勝した。艇別では、練習豊富なクルーの見事なチーム・ワークにより卒なく走った〈WILL〉の順当な優勝となった。その他のレース成績は別表を御覧いただくこととして、今回のレース運営から得られた現場の実感を今後の指針として述べてみたい。

昨年のこのレースでレース委員長を務められた小沢氏が、昨年のオショア第148号にレース後記を書い

ておられたが、その中で「大型艇と小型艇が同時にスタートするレースでは、どうしても小型艇が不利になる。従って、何等かの対策をたてない限り小型艇の参加が減少すると思われる。」と述べている。その小沢氏が今年は実行委員長としてレースの基本方針を打出された。それによると、昨年の経験に基づき、参加艇をクラスⅢ以上とクラスⅣ以下の2つのグループに分け、夫々10分間隔でスタートすることとなった。この方法は、スタート時に於ける混乱、特に小型艇の不満を解消するためには有効だが、10分間隔でスタートした2つのグループは厳密には同一のレースとは言えないという難点がある。例えばスナイプと470という様な別個のクラスが夫々の成績を別々に出すレースであれば10分間隔のスタートもいいが、別々にスタートした2つのグループの艇群について、夫々の所要時間から計算した成績を一つに纏めるという方法には若干疑問が残る。今回の様に総合成績を出す場合には、果たしてこの様な方法でいいのかどうか、もっと検討する必要があると思われる。

次にコミッティー・ボートの艇数と装備に関して予算の問題である。ご承知の通り水深の深い相模湾に於いて、ロランもない艇で正確な位置にマークを打つことは至難である。案の定マークの位置が正確でないという苦情が一部の参加艇から出た。又、本部艇はシーボニアの《東海》であったが、その大きなアンカーと200mものアンカー・ロープを人力で引上げることはこれ又並大抵ではない。アルバイトの学生さんもダウンして、遂にフィニッシュ・ライン設定の投錨は断念せざるを得なくなった。

風波が穏やかな時はまだいいが、すこし風が出てくると、フリーボードの高い《東海》は一定の位置をキープすることが困難となる。このため艇によりフィニッシュ・タイムに、僅かながら誤差が出る結果となった。それは各艇の順位に影響を及ぼす程の大きな誤差ではないが、修正時間が接近している場合には微妙なケースなきにしもあらずとも考えられる。この本部艇のドリフティングに対してもクレームがつけられた。この問題はいづれも、僅かな予算の範囲内でシリーズ・レースを運営しなければならないといった制約に起因しているが、参加艇としては釈然としないものが残ったことであろう。同じNORCの主催するレースでも、

理解あるスポンサーの御陰で、今回の予算の数十倍という潤沢な資金のもとで開催されるジャパン・カップ等の本部レースもある。この資金の偏在を是正することはできないものであろうか。

乗員の体重制限も、今回新たに採用された方式である。これは次の計算式によって計算されたリミット内であれば、人数は問わないというものである。

$$(74.0 \times R - 370.0) / 2.204 \quad (R \text{ はレーティング・フィート})$$

IORで採用したこの方式は今後普及するものと思われるが、国際レース等に於いて、平均体重の少ない我々日本人にとっては好都合なルールであるが、問題は船検との兼合いである。船検の乗員数（ライフ・ラフトの定員）をオーバーすることもあるからである。それともうひとつは、クルー全員の体重を正確に把握しておくことである。今回も「体重をチェックすることがある」旨を伝えたところ、即座に艇申告を書きなおすといったケースもあった。今後はこの様なことのない様、正確に申告して欲しいものである。ジャパン・カップも体重制限方式を採用すると聞いている。公明正大な申告が定着してくれることを期待するのは筆者だけではないだろう。



《KARASU》(3-11-7-4-24で艇別10位)

### 3位 油壺フリートBチーム



《SLEEPER》(5-5-9-3-1で艇別2位)



《SLEEPER》(5-5-9-3-1で艇別2位)



&lt;海太郎III&gt; (DNS-1-4-5-6で艇別5位)



## 第38回大島レース

「こんな風なら、みんなタイムリミットにひっかかるかな」というつぶやきの中、伝統の第38回大島レースのスタートガンが鳴った。コミッティは本部船有利にスタートラインを設定。〈織姫〉〈MRS. MEDAU-SAE〉〈しょうがく坊〉の三艇がとんでもないリコール、そのまま戻らず。〈SEE ADLER〉が50cmもないジャストスタート、本部船よりのスターボード集団とりミットマークよりのポート集団に分れる。大臣の乗った〈CONTESSA〉は本部船よりからスタート、昨年もスタートは好調だったが今年の結果に期待。スピinnの集団が全然離れずに止まっているように見える。「さあ、我々は昼めしにしようや」というわけで、マリーナに戻った。

15時頃から雨もあがり、恒例のウエルカム・パーティの準備が始まった。今年のメニューはおでんとフランスパンとオレンジ。温かいシャワーも準備完了。レース本部は新装なったクラブハウスに設置。相模湾が一望に見渡せる。夕焼けの中に浮かぶ富士山がきれい。夕方から良い風が吹きだしたが沖はどうか? 23時本部にパーティに参加出来ない艇に渡すS & Bのおでんとビールとパンの包みが積込まれスタンバイ。風も北にまわり暗いうちにはフィニッシュしないと思わ

れるが、1時30分に本部船が出港、新宿湾にアンカリング。

3時15分、沖にグリーンのランプが見える。真上りのためなかなか近づかない。クラブハウスのデッキは絶好の観覧席。4時、空が白んできたが先ほどのランプはレース艇ではなさそう。6時、北々東の風4~5KNOT。天気晴朗なれどレース艇見えず。6時25分、名島の沖にスターboroで上ってくる大型艇が見える。今度は本物か?

7時20分40秒、〈SLEEPER〉ファーストホーム。続いて長者ヶ崎沖に2位の艇が見える。9時、風が変わりスピinnが揚がるが、萎みがち。10時02分18秒、〈MARENRO〉 続いて10時06分54秒、〈WILL〉ゴール。

続いて、次々にゴール。デッキでのレース艇を見ながらのパーティも盛上がってきた。16時タイムリミット。〈MARTHA〉〈BOY〉〈AZZURRA〉が直前でDNF。総合優勝は〈SLEEPER〉。葉山町長杯は〈海太郎〉葉山マリーナヨットクラブ杯は〈しょうがく坊〉。

記録 レース副委員長 田中一美  
追記: 17時05分、横須賀海上保安部 花沢氏へレース終了報告。

# 表彰式&パーティ

S 63、6月11日(土)19:00から、表彰式及びパーティが行われた。  
表彰対象は、初島卯月レース、初島レース、大島レース、関東  
支部フリート対抗レースの4レースであった。

## 1988初島卯月レース

総合優勝 <SLEEPER>  
Aクラス優勝 <SLEEPER>  
Bクラス優勝 <MAGIC>  
C R クラス優勝 <CORVATSCH II>

## 第38回大島レース

総合優勝 <SLEEPER>  
Aクラス優勝 <SLEEPER>  
Bクラス優勝 <再見>  
C R クラス優勝 <しょうがく坊>

## 1988初島レース

総合優勝 <海太郎III>  
Aクラス優勝 <海太郎III>  
Bクラス優勝 <SYLPHIDES>  
C R クラス優勝 <桃李III>

## 第11回フリート対抗レース

チーム優勝 シーボニアフリート  
<MARENROW><SYLPHIDES V>  
<SUPER WICH II>  
2位チーム 逗子フリート  
<CAETLA><写楽>  
<OTSHOSAN>  
3位チーム 油壺フリート  
<SLEEPER><カラス>  
<青海波>  
ポイントゲッター賞 <WILL>  
2位 <SLEEPER>  
3位 <CAETLA>  
4位 <MARENROW>  
5位 <海太郎III>



↑<WILL> 小田良司オーナー  
(F 対抗艇別 1位)



↑<SLEEPER> 大野オーナー  
(初島卯月・大島R 総合優勝,  
F 対抗艇別 2位)



↑<海太郎> 千葉育夫オーナー  
(初島R 総合優勝, F 対抗艇  
別 5位)



<しょうがく坊> 神保オーナー  
(大島R CR クラス優勝)



←  
高橋伸博オーナー  
(大島R  
B クラス優勝)



→  
<CORVATSCH II> 加藤オーナー  
(中央)  
浅野スキッパー(左)  
(初島卯月R CR クラス優勝)  
(桃李III) 小川オーナースキッパー  
(初島R CR クラス優勝)



## 第11回 NORC関東支部フリート対抗レース

レース委員長：石井 正行

チーム名 No.	SAIL No.	艇 名	オーナー名	TYPE	CL	R.ft.	T.C.F	第1レース 得 点	第2レース 得 点	第3レース 得 点	第4レース 得 点	第5レース 得 点	得 点合 計	順位	チーム得点計 チーム順位	
横浜	3670	再見葉	高橋伸博	K-30R	5	22.53	0.7347	13.00	27.00	29.00	7.00	52.00	128.00	11	229.50	
横浜	2422	青MAPLE	福田義一 橋本博	Y-34R YOK40	4 3	24.40 29.79	0.7540 0.8058	18.00 4.00	15.00 19.50	11.00 6.00	8.00 4.00	6.00	62.00 39.50	24 29	8	
小網代	1155	一乗Ⅲ	青山恒昌 近藤祐之 大谷正彦	YOK31N HT34 YOK33	5 4 4	22.37 25.54 24.12	0.7330 0.7654 0.7511	12.00 11.00 8.00	40.50 24.00 7.50	26.00 13.00 19.00	9.00 8.00 10.00	46.00 36.00 32.00	133.50 92.00 76.50	8 17 21	302.00	
小網代	381	八丈V	古川保夫 津村重幸 石原慎太郎	FRE40 FRE40 DOU42	2 2 2	31.49 31.39 32.32	0.8212 0.8203 0.8285	16.00 15.00 3.00	30.00 18.00 31.50	11.00 16.00 1.00	15.00 12.00 6.00	10.00 20.00 12.00	82.00 81.00 53.50	18 19 25	5	
油壺	3335	織姫	武部喜一 斜森保雄 清田博	N/M42 TAK40 X-1	2 2 2	32.67 31.05 30.37	0.8316 0.8172 0.8111	26.00 28.00 14.00	42.00 33.00 36.00	22.00 24.00 1.00	28.00 27.00 19.00	60.50 178.50 17.50	18 20.00 12.00	216.50		
油壺	3410	ZERO II	高村宏 木原和嘉 中立堯	TAK34 TAK33 TAK32	4 4 5	24.63 24.04 22.81	0.7563 0.7503 0.7376	17.00 27.00 20.00	39.00 10.50 1.50	14.00 25.00 1.00	14.00 16.00 1.00	48.00 22.00 1.00	132.00 100.50 2.00	9 10 16	3	
油壺	188	CONTESSA VIII	田沼英明 菅野道隆 山田隆	YOK35 YOK28 YAM34R	4 5 4	25.83 21.68 24.96	0.7682 0.7256 0.7596	6.00 10.00 7.00	25.50 13.50 9.00	1.00 8.00 12.00	20.00 5.00 21.00	24.00 16.00 21.00	76.50 52.50 2.00	21 27 51.00	258.00	
油壺	3530	SUMMER KNOWS	杉山直行 蒲谷和行 長谷川至	YOK40 YOK32 YAM30R	2 5 5	30.89 22.92 22.94	0.8158 0.7387 0.7390	21.00 29.00 30.25	37.50 45.00 16.50	23.00 21.00 20.00	24.00 25.00 29.00	54.00 30.00 29.00	164.50 30.00 150.00	21 27 51.00	180.00	
シーボニア	3001	HALF TIME	沼田尚文 熱田二士行 井上一典	X-3/4 YAM34R YOK32	4 4 5	24.52 25.17 22.88	0.7552 0.7617 0.7383	23.00 22.00 19.00	43.50 28.50 21.00	30.25 17.00 9.00	23.00 18.00 17.00	58.00 34.00 42.00	177.75 119.50 108.00	3 12 14	448.25	
シーボニア	3373	AFRODITA	千葉育夫 堀内滋彦 永田敬二	FAR40 DOU42 HOL33	2 2 4	30.44 31.99 24.44	0.8117 0.8256 0.7544	1.00 9.00 5.00	48.38 22.50 18.00	27.00 7.00 2.00	26.00 13.00 44.00	50.00 28.00 44.00	152.38 119.50 79.50	5 12 69.00	405.25	
シーボニア	3606	BOY	小田良司 五十井進 沢野裕治	SEE ADLER V ITO40 J-41	2 2 2	30.45 30.99 30.01	0.8118 0.8167 0.8078	25.00 24.00 1.00	46.50 12.00 34.50	23.00 15.00 1.00	30.25 22.00 3.00	56.00 40.00 14.00	180.75 113.00 53.50	1 13 25	347.25	
葉山	3290	海太朗Ⅲ	千葉育夫 堀内滋彦 永田敬二	FAR40 DOU42 HOL33	2 2 4	30.44 31.99 24.44	0.8117 0.8256 0.7544	1.00 9.00 5.00	48.38 22.50 18.00	27.00 7.00 2.00	26.00 13.00 44.00	50.00 28.00 44.00	152.38 119.50 79.50	5 12 69.00	300.88	
葉山	3233	SEE ADLER V	小田良司 五十井進 沢野裕治	FAR40 ITO40 J-41	2 2 2	30.45 30.99 30.01	0.8118 0.8167 0.8078	25.00 24.00 1.00	46.50 12.00 34.50	23.00 15.00 1.00	30.25 22.00 3.00	56.00 40.00 14.00	180.75 113.00 53.50	1 13 25	347.25	
江の島	3537	WILL	江の島	LAVIEEN ROSE	2	30.45	0.8118	25.00	46.50	23.00	30.25	56.00	180.75	1	347.25	
江の島	3544	BLUE NOTE	江の島		2	30.45	0.8167	24.00	12.00	15.00	22.00	40.00	113.00	13	4	
江の島	3519		江の島		2	30.45	0.8078	1.00	34.50	1.00	3.00	14.00	53.50	25		

## フリート対抗 艇別成績表 レース委員長:石井正行

SAIL NO	艇名	第1レース順位	得点	第2レース順位	得点	第3レース順位	得点	第4レース順位	得点	第5レース順位	得点	得点計	個別順位
3537	WILL	6	27.00	2	46.50	8	25.00	1	32.25	3	60.00	190.75	1
355	SLEEPER	5	28.00	5	42.00	9	24.00	3	30.00	1	64.50	188.50	2
3561	CAETLA	8	25.00	4	43.50	1	32.25	8	25.00	2	62.00	187.75	3
3705	MATENROW	10	23.00	8	37.50	3	30.00	7	26.00	4	58.00	174.50	4
3290	海太郎 III	DNS	2.00	1	48.38	4	29.000	5	28.00	6	54.00	161.38	5
3002	SYLPHIDES V 一乗 III	2	31.00	3	45.00	10	23.00	6	27.00	17	32.00	158.00	6
1155	SUMMER KNOWS	19	14.00	6	40.50	5	28.00	24	9.00	8	50.00	141.50	7
3530	SUPER WITCH II	14	19.00	7	39.00	17	16.00	18	15.00	7	52.00	141.00	8
3825	KARASU	3	30.00	11	33.00	7	26.00	4	29.00	24	18.00	140.25	9
3800	再見	18	15.00	15	27.00	2	31.00	26	7.00	5	56.00	136.00	10
3670	写楽	9	24.00	14	28.50	14	19.00	13	20.00	15	36.00	127.50	12
3809	BLUE NOTE	7	26.00	26	10.50	16	17.000	9	24.00	12	42.00	119.50	13
3544	OTSHOSAN	12	21.00	20	19.50	23	10.00	14	19.00	10	46.00	115.50	14
3414	MRS MEDUSA E V	4	29.00	27	9.00	6	27.00	15	20.00	22	22.00	107.00	15
3044	青海波	17	16.00	9	36.00	DNS	4.00	12	21.00	20	-26.00	103.00	16
3660	八丈 V	20	13.00	17	24.00	18	15.00	25	8.00	14	38.00	98.00	17
381	纖姫	15	18.00	13	30.00	20	16.00	16	17.00	28	10.00	91.00	18
3335	ZERO II	16	17.00	22	16.50	15	18.00	20	13.00	23	20.00	84.50	19
3410	ケロニア	23	10.00	29	6.00	12	21.00	22	11.00	16	34.00	82.00	20
3233	SEE ADLER V	22	11.00	19	21.00	26	7.00	19	14.00	19	28.00	81.00	21
3001	HALF TIME	25	8.00	16	25.50	DNC	1.00	11	22.00	21	24.00	80.50	22
3839	海援隊	26	7.00	DSQ	0.00	13	20.00	31	2.00	9	48.00	77.00	23
3755	BJ V	28	5.00	18	22.50	25	8.00	23	10.00	18	30.00	75.50	24
3887	MAGIC	DNC	1.00	DNC	1.50	22	11.00	17	16.00	11	44.00	73.50	25
2422	青葉	13	20.000	24	13.50	11	12.00	21	12.00	29	8.00	65.50	26
3606	BOY	24	9.00	28	7.50	19	14.00	10	23.00	DNF	4.00	57.50	27
188	CONTESSA	29	4.00	12	31.50	DNS	4.00	27	6.00	27	12.00	57.50	27
3519	LAVIEN ROSE	DNS	2.00	10	34.50	DNC	1.00	30	3.00	26	14.00	54.50	29
3373	AFRODITA	21	12.00	25	12.00	24	9.00	28	5.00	25	16.00	54.00	30
2611	MAPLE	27	6.00	21	18.00	27	6.00	29	4.00	30	6.00	40.00	31
2979	SEA CROWN III	11	22.00	RET	3.00	DNC	1.00	DNC	1.00	DNC	2.00	29.00	32

## 1988年初島レース成績表

1988.5.14 スタート時刻 17:45  
IOR CLASS

S-No.	NAME of YACHT	TYPE	R (ft)	T.C.F.	NAME OF OWNER	finish time	所要時間	修正時間	クラス順位	総合順位
3290	海太朗	FAR 40	30.44	0.8117	千葉 育夫	1 : 22 : 10	27430	22264.93	1	1
3537	WILL	FAR 40	30.45	0.8117	小田 尚文	1 : 23 : 26	28106	22816.45	2	2
3561	CAETLA	X 3/4	24.52	0.7552	沼田 喜一	2 : 13 : 31	30511	23041.91	3	4
3555	SLEEPER	N/M 42	32.67	0.8316	武部 宏	1 : 27 : 45	27765	28089.37	4	5
3530	SUMMER KNOWS	TAK 34	24.63	0.7563	高村 直行	2 : 18 : 8	30788	23284.96	5	7
3705	MATENROW	YOK 40	30.89	0.8158	杉山 博	1 : 41 : 10	28570	23307.41	II	6
3660	青海波	X 1	30.37	0.8111	清田 博	1 : 45 : 14	28814	23371.04	7	9
3519	LAVIEEN ROSE	J-41	30.01	0.8078	渕野 裕治	1 : 47 : 29	28949	23385	I	8
3800	KARASU	TAK 40	31.05	0.8172	鈴木 保雄	1 : 42 : 27	28647	23410.33	VI	9
188	CONTESSA VIII	DOU 42	32.32	0.8285	石原 慎太郎	1 : 39 : 11	28451	23571.65	10	12
3355	織姫	FRE 41	31.49	0.8212	古川 保夫	1 : 43 : 33	28713	23579.12	ク	11
3809	写樂	YAM 34R	25.17	0.7616	熱田 二士行	2 : 25 : 23	31223	23782.56	12	14
3001	HALF TIME	YOK 35	25.83	0.7682	田沼 英明	2 : 23 : 49	31129	23913.3	ラ	13
381	八丈 V	HT 34	25.54	0.7654	近藤 権之	2 : 27 : 53	31373	24012.89	ス	14
3755	BJ-V	FC 12	30.91	0.8160	猪狩 光清	1 : 55 : 30	29430	24014.88	15	18
3233	SEE ADLER V	DOU 42	31.99	0.8256	堀内 滋彦	1 : 50 : 27	29127	24047.25	16	19
2611	MAPLE	YOK 40	29.79	0.8058	橋本 博	2 : 9 : 46	30286	24404.46	17	21
3410	ZERO II	FRE 41	31.39	0.8203	津村 幸平	2 : 2 : 50	29870	24502.36	18	22
2422	青葉	YAM 34	24.40	0.7540	福田 義一	2 : 51 : 25	32785	24719.89	19	24
389	NADIA IV	TAK 39	29.00	0.7985	白崎 謙太郎	2 : 21 : 33	30993	24747.91	20	26
3544	BLUE NOTE	ITO 41	30.99	0.8167	五十井 進	2 : 11 : 54	30414	24839.11	21	28
3044	MRS.MEDAUSAE	TAK 33	24.04	0.7503	木原 和喜	2 : 58 : 40	33220	24924.97	22	30
3606	BOY	YAM 34R	24.96	0.7596	山田 隆	2 : 55 : 35	33035	25093.39	23	32
2182	KELONIA	YOK 33	24.12	0.7511	大谷 正彥	3 : 52 : 11	36431	27363.32	24	35
3575	かくや姫	YOK 33	23.12	0.7408	初鹿野 幸生	RET				34
3839	救援隊	HOL 33	24.44	0.7544	永田 敏二	DSQ				
3002	SYLPHIDES	YOK 32S	22.92	0.7387	蒲谷 和行	2 : 21 : 27	30987	22890.1	1	3
1155	一乗三	YOK 31N	22.37	0.7330	青山 恒昌	2 : 33 : 43	31723	23252.96	2	6
3670	再見	KUM 31	22.53	0.7347	高橋 伸博	2 : 46 : 49	32309	23884.36	3	15
3414	OTSHOSAN	YOK 32S	22.88	0.7383	井上 一典	2 : 48 : 34	32614	24078.92	4	20
3825	SUPER WITCH II	YR 30R	22.94	0.7390	長谷川 '至	2 : 58 : 26	33206	24539.32	5	23
3373	AFRODATA	YOK 28	21.68	0.7256	菅野 道	3 : 13 : 14	34094	24738.61	6	25
3558	MAY BE	YOK 31N	22.57	0.7351	福石 弘三	3 : 6 : 51	33711	24780.96	7	27
2970	POINCIANA	U 30	21.13	0.7197	大杉 文哉	3 : 20 : 14	34514	24839.73	8	29
3387	BASIC	YOK 28	21.50	0.7237	小坂橋 博行	3 : 20 : 4	34504	24970.54	9	31
3501	SONN BLUME	YOK 31N	22.52	0.7346	戸田 宏	3 : 18 : 39	34419	25284.2	10	33
2219	PEGASUS	TAK 26	18.92	0.6950	北村 勝彦	4 : 18 : 42	38622	26425.29	11	34
2979	SEA CROWN	TAK 32	22.81	0.7376	中立 勇	RET				35
CR CLASS										
2234	TOMRI III	BEN 29	6.50		佐々木 研一	5 : 46 : 47	43307	43205.45	1	優勝
2967	HOLIDAY	YOK 29	0.00		馬日徳男	DNC				

## NORC 第38回大島レース成績表

\*JORクラス

I ~ IV

スタート時刻昭和63年5月28日11時00分

レース委員長：小田切満寿雄

CL順位	SAIL#	艇名	初島回航	大島回航	到着時間	T.C.F	修正時間(秒)	総合順位
28	2112	FUJI III	16:56' 00	03:56' 00	12:52' 49	0.8665	80731	39
22	188	CONTESSA VIII	16:34' 00	01:22' 00	12:39' 32	0.8285	76530	33
①	355	SLEEPER	15:47' 00	21:50' 00	07:20' 40	0.8316	60906	①
14	3233	SEE ADLER V	16:05' 00	01:50' 00	11:40' 15	0.8256	73326	21
5	3290	海太朗	16:55' 00	03:35' 00	10:43' 27	0.8117	69325	⑥
* 24	3335	織姫	16:45' 00	02:50' 00	11:58' 26	0.8212	77522	35
27	3355	雪風V	17:20' 00	04:06' 00	14:34' 02	0.8088	80267	38
18	3410	ZERO II	16:35' 00	01:15' 00	12:04' 45	0.8203	74061	26
20	3519	LAVIEEN ROSI	16:45' 00	04:00' 00	13:07' 21	0.8078	75966	31
3	3537	WILL	16:37' 00	00:37' 00	10:06' 54	0.8118	67553	3
9	3544	BLUE NOTE	16:20' 00	00:26' 00	11:25' 14	0.8167	71799	13
15	3660	青海波	16:15' 00	01:37' 00	12:10' 01	0.8111	73486	22
4	3705	MATENROW	16:26' 00	00:32' 00	10:02' 18	0.8158	67660	4
13	3755	BJ V	16:05' 00	03:45' 00	11:56' 24	0.8160	73264	19
19	3800	KARASU	16:50' 00	01:20' 00	12:15' 10	0.8172	74292	27
8	3887	MAGIC	16:28' 00	01:03' 00	11:26' 57	0.8131	71567	12
	389	NADJA IV				0.7985	RET	
26	2611	MAPIE	17:00' 00	04:25' 00	14:02' 02	0.8058	78422	37
10	381	八丈V	17:09' 00	03:40' 00	13:19' 50	0.7654	72552	15
12	2182	KELONIA	17:30' 00	04:12' 00	13:54' 39	0.7511	72766	17
23	2221	梓	17:23' 00	04:20' 00	15:09' 27	0.7562	76654	34
25	2422	青葉	17:09' 00	04:30' 00	15:43' 22	0.7540	77965	36
16	3001	HALF TIME	16:45' 00	04:20' 00	13:40' 05	0.7682	73751	23
	3035	MARTHA				0.7687	DNF	
* 17	3044	MRS. MEDAUSAE	17:00' 00	03:40' 00	13:03' 35	0.7503	73909	25
21	3351	BIG SHOT	17:05' 00	04:27' 00	15:27' 14	0.7426	76067	32
7	3530	SUMMER KNOWS	17:15' 00	03:40' 00	12:45' 15	0.7563	70120	7
2	3561	CA ET LA	16:35' 00	01:10' 00	11:43' 29	0.7552	67220	2
	3575	かぐや姫				0.7408	RFT	
	3606	BOY				0.7596	DNF	
11	3809	写樂	16:50' 00	03:30' 00	13:29' 43	0.7617	72653	16
7	3839	海援隊	17:15' 00	04:30' 00	13:11' 29	0.7544	71132	9

V ~ VI

CL順位	SAIL#	艇名	初島回航	大島回航	到着時間	T.C.F	修正時間(秒)	総合順位
2	1155	一乗III	17:55' 00	03:50' 00	13:43' 39	0.7330	70529	8
6	3002	SYLPHIDES	17:05' 00	04:05' 00	14:27' 32	0.7387	73022	18
8	3228	ALPHA	17:17' 00	04:07' 00	14:51' 24	0.7355	73759	24
7	3236	NEFUNOREO	17:50' 00	04:00' 00	14:51' 30	0.7310	73312	20
	3333	TABATHA				0.7330	RET	
10	3373	AFRODITA	17:20' 00	04:10' 00	15:28' 23	0.7256	74376	29
	3387	BASIC				0.7237	RET	
4	3414	OTSHOSAN	17:30' 00	04:00' 00	13:49' 37	0.7383	71303	11
9	3494	ARC-EN-CIEL	17:00' 00	04:05' 00	15:04' 34	0.7352	74310	28
11	3501	SONN BLUME	17:00' 00	04:00' 00	15:37' 49	0.7346	75714	30
①	3670	再見	16:55' 00	03:35' 00	12:54' 30	0.7347	68525	5
5	3825	SUPER WI ICH II	16:45' 00	04:05' 00	14:02' 54	0.7390	71959	14
3	2219	PEGASUS	18:15' 00	04:10' 00	15:28' 09	0.6950	71230	10

\* クルーザー・レーティングクラス (距離: 85浬 タイムテーブル: II)

CL順位	SAIL#	艇名	初島回航	大島回航	到着時間	R.m	修正時間(秒)	総合順位
	669	CORVATSCH II				7.30	RET	
	1115	STAYER				8.25	RET	
* ①	1579	しょうがく坊	17:05' 00	04:00' 00	15:05' 52	7.35	52570	①
	3466	AZZURRA				7.65	DNF	

\*印リコール 5% ベナルティ

記録 レース副委員長 田中 一美 レース委員 中山 善光



# 東京一小笠原レース 詳報 沖縄一東京レース

東京～小笠原レース委員長 横 正寛

沖縄～東京レース委員長 城間祥行  
小笠原

沖縄～東京(父島)レース実行委員長 東江正喜

沖縄～小笠原レース優勝(月光V) 並木茂士

華の優勝の記(ハーフタイム) 朝河 清

## 東京～小笠原レース委員長 横 正寛

レースを離れて、初めてレース委員に加わり、レースの運営に係わった。

今回の東京～小笠原レースは、小笠原返還20周年の一連のキャンペーンの1部門として、ヨットレースが取り上げられ、通常のNORC主催のものとは趣を異にするものであった。

従って我々の考えも、レースそのものよりも、イベント的盛り上りを主とするような動きになって行くようであった。

その一つが、東京港ヨットパレードである。

東京港においてヨットパレードが行なわれるのは、初めてのケースで、海上保安庁にお百度を踏むことになった。

諸官庁の許認可が、年々困難になりつつあることは諸兄もよく御存知のこととは思うが、海上保安庁も、その例に洩れない。

事務局の久保常務理事に、この困難な事務処理をお願いして、やっと5月25日、パレード実施4日前に許可が出た。しかし、許可そのものも大変であるが許可条件もまた、非常に厳しい。

その条件の中で我々を最も苦しめるのは、金のかかる条件である。即ちパレードの警備をやらなければならぬのである。

警備はパレードの前、後、左右をモーターボートで行なえというものであった。浅野氏に依頼して某業者に手配をお願いしたが、なかなか良い返事が貰えず、東京湾マリーナの会長長島定則氏に紹介の労を取っていただき、やっとモーターボートオーナーの参加協力が実現した。

パレード艇がどの位集まってくれるのか? ということも我々の心配の種であった。東京港の近くのマリーナに掲示をお願いしたが、問い合わせはほとんどない。仕方がないから、ヨットオーナーにダイレクト

メールで連絡を取ることにしたが、NORCの会員はほとんどいない。そこで各マリーナに名簿の提出をお願いしたところ、極秘で、税務署にも提出は断わっているとの事。

あちこち手を尽して、オーナーの名簿を手に入れて往復葉書で連絡をした。反応は抜群で約60艇の申し込みがあり我々をほっとさせた。

パレードは4月29日午前10時開始された。コースは晴海埠頭から東京港西航路を経て、東京灯標南東約2000米の地点まで、約6浬。整然と2列縱隊でメインのみを展開し機帆走である。先導艇(コーラル、ホワイト350 GT)は4ノットでパレードをリードする。東京都の「新東京丸」が優雅な姿を見せて伴走する。

(この艇も「休日出勤」のため伴走に出るのか出ないのか、仲々決まらず我々を心配させた。ゲストの配乗が決められなかったからである。)

長く艇列が伸びた頃、左より31舟に曳航された端舟がパレードの真中を横切った。パレードは前後に二分されたが、後が追いついて来るのを待っているひまはない。パレードの許可時間は11:40である。レースのスタートは12:00であるから11:30までにスタート海面に到着しなければならない。

今回のパレードには休日であったにも係らず担当官庁の視察見学者が多かったと聞く。海洋レジャーの先行を明るくするきざしであろうか。

無事パレードを終えてレースがスタートする。スタートは12:00。全艇オールクリア。何故か「衣笠」だけが大きく遅れる。レース後「スタートが1分早かつたのではないか?」とクレーム(冗談?)が出た。

5月3日午前0時頃よりフィニッシュ艇が入り始め、5月4日にリタイヤ艇(友架里)を含め全艇無事フィニッシュしてレース完了。

小笠原ヨットクラブのメンバの方々には受け入れ

を全面的に応援して戴いて本当にありがとうございました。

5月2日から5月6日まで、24時間ワッチをして戴いた。並々ならぬ御苦労をかけた。どんな形で我々の感謝の気持を表現したら良いものか。石原名誉会長名での感謝状の贈呈の案も出たが、まだ決まっていない。

パーティは前夜祭と表彰式後と2回行なわれた。前夜祭は東京会館で約500人の参加があり盛大であった。場所がら「見苦しくない服装を」とお願いし、一部の方々に連絡が行き届かず、迷惑を掛けてしまった。何卒お許し下さい。

表彰式後のパーティも大いに盛り上り、終宴が早すぎたとのクレームも聞こえる程であった。

尚両パーティ共東京都及び小笠原村の全面的な協力で行なわれたもので、レース艇は参加費無料、パレード艇は若干の整理費用というものであった。おまけに土産つきであったから盛り上りも当然といえるかも。

今回のパレード及びレースについての感想を以下に述べる。

パレード、レースと共に言えることは、いかに官庁の許認可を得るのが大変かということである。従ってこの種の行事をこれからも繰返し行なって、日常茶

飯事化し、諸官庁にとっては日常の事務手続であると認識して貰うことが良いのではないか。

パレード参加艇はほとんどクルーザーであり、いつもは個別にクルージングを楽しんでいる人々である。しかしこの種の催しには積極的に参加したい意向が見受けられた。NORCの会員構成の中には少ない人々であるが、今後この様な立場の人達にNORCに是非参加して貰うための組織造りが必要であると考える。

レースについては参加艇が少なく、淋しい気がする。ネックは無線であろう。価格、納期、通信士の資格と問題が大きい。何らかの解決手段はないものか。

次回スタート、フィニッシュはどの様にすべきか? 小笠原フィニッシュは非常に楽しいとの意見が沢山あった。どちらのフィニッシュにしろ協力して戴くヨットクラブからの参加が欲しい。もし出走が無理ならば、レースのクルーとして参加して貰えれば一段と盛り上がるのではないか。

おわりに小笠原村のヨットクラブの方々他、協力を戴いた方々にNORCとして感謝の気持を具体化する方法を考慮中である。

## 沖縄～東京豪華レース委員長 城間祥行

### 沖縄と沖縄～東京レース

今回で第9回を数える沖縄～東京ヨットレースは、昭和47年に沖縄の本土復帰を記念して企画されたもので、第1回レースはその年の4月29日、那覇港沖をスタートしました。それ以来16年間、レースは隔年毎に挙行され、日本国内における最長の外洋ヨットレースとしての実績を残して参りました。本誌の沖縄～東京レースの記事を読んでも、各レースの成績やエピソードの中に輝かしい歴史を感じます。

私たち沖縄のヨットマンにとりましては、その間に沖縄～東京レースとのかかわり方を変えなければならない状況の変化がありました。昭和55年4月28日、第5回レースの前夜祭において、沖縄支部の結成がなされ、不肖私が支部長に指名されました。これまでレースの運営についてはNORC本部が主体となってやり、私たちは補助的なことしかやっておりませんでしたが、将来はスタートを沖縄サイドで運営する様にとの本部の御意向でしたので、私たちとしましても体制固めに努力することにしました。そして今回のレースからは大体その線に添って運営出来たと思っています。

昭和57年の第6回レースは、丁度沖縄の本土復帰10周年にあたりましたので、復帰記念レースとして大きく取り上げることにしました。県の観光文化局、県観光開発公社、那覇市、マスコミ各社、その他各方面の御理解をいただき、御後援・御協賛をいただきました。

その締めくくりとして、西銘順治沖縄県知事に本部船に御同乗いただき、スタートの号砲を打っていただきました。記念レースは大成功でした。

第8回レースは、チャールズ皇太子とダイアナ妃の御来日を記念して、The Prince & Princess of Wales Cupが下賜され、総合優勝の〈ボンフリーIII〉が同Cupを獲得する栄誉に輝きました。

ふり返って見ますと、沖縄～東京レースの航跡は楽しく栄光に満ちたことばかりが頭に浮かんで来ますが、必ずしも安穏としてはおられない事態がおこっていることも確かです。第8回までの参加艇の数を見ますと、第4回27艇を最高として第8回9艇と、激減していることが気になります。このことについては第8回レースの渡辺修治委員長も指摘されていますが、その原因と対策については真剣に取り組まなければならない問題だと思います。

### 沖縄～東京から沖縄～小笠原へ

毎回のレースについては、私たちはおよそ1年前から、県当局、観光開発公社、港湾関係、パーティー会場などの接洽を始めることにしておりましたが、今回第9回のレースについては、私たちが動き出す前に昨年2月NORC本部からレースについての接触がありました。それも大変重要な用件でした。来年は東京都の小笠原の日本復帰20周年記念にあたるので、東京～小笠原記念レースをやりたい。それについて日程が沖縄～東京レースと重なるので、調整出来ないかという

のです。沖縄～東京レースを1年ずらすか、あるいは、沖縄～東京レースのフィニッシュを小笠原にして、東京～小笠原レースにドッキングするか、そのいずれかが考えられるといいます。事情はわかるけれども、ただでさえ参加艇が減って人気が落ちて来ている沖縄～東京レースに、これ以上ダメージが加わっては目もあてられませんので、即答をさせてNORC支部として検討することにしました。

その後、5月に安藤光一小笠原村長と薬師寺さんが沖縄に来島されましたので、県や観光開発公社に案内してレースについて話し合いました。当地においても本土復帰記念レースをやった経験がありますし、安藤村長さんのお気持ちもよくわかりますので、基本的に応援するという方向で話をすすめました。ただ薬師寺さんには、参加艇については本部の方で最低10艇は確保していただくことをお願いしました。

#### 座間味レース

昨年は9月に夏期国体のヨットレースが、完成したばかりの宜野湾港（ぎのわん）マリーナでありましたが、関係者たちの協力でスムーズに運営されました。沖縄～東京レースをこのハーバーで予定している私たちとしては、ハーバーの使用にまず一安心というところでした。

その間にもレースの日は近づいて来るのにNORC本部からの参加艇に関する情報は、あまりかんばしいものではありませんでした。最終的には参加5艇ということでしたが、1艇が巡回中のトラブルでさらに減って4艇になりました。

これまでの沖縄～東京レースでは、レース参加艇のクルーの皆さんと沖縄のヨットマンとの交流・親睦の意味で、本レースの1～2日前に座間味レースをやり、座間味の美しい海を楽しんで貰っていましたが、今回は座間味レースの趣向を大きく変えることにしました。即ち、座間味レースは沖縄艇だけとする。4月29日、4月30日、5月1日の3日間、3レースのシリーズとする。4月29日は沖縄～東京レースと同時スタートする。ということでした。本レースと草レースのスタートを同時にすることについては、トラブル発生の処理について懸念されましたが、結果的にはこの企画は正解だったと思われました。

4月29日は、沖縄～東京レース参加の4艇と沖縄艇7、計11艇、艇数はやや少ないけれども何とか絵になるスタートが出来ました。参加艇数やスタートのことでの御相談にのっていただいた、宮坂さんも私たち同様にはっとされたことでしょう。

座間味レースは3日間、7、5、5艇の参加がありました。その間に、沖縄～東京レースの前夜祭を含めて、3回のパーティーがありました。レースはともかく、みんな大いにパーティーを楽しみました。将来は、本土から来て、座間味レース並びに連休の沖縄諸島クルージングなどを楽しむのも、またすばらしいバランスの楽しみ方だと思いますが、如何でしょうか（？）

#### 前夜祭そしてスタート

宜野湾港マリーナに道ひとつ隣接して、沖縄コンベンションセンターがあります。今回のレースでは艇長会議と前夜祭に同ホールの大会議室を使いました。

艇長会議は例年にならって、沖縄気象台の大城主任予報官と第11管区海上保安本部の坪井航行安全課長に、それぞれレース中の天候と航路について御説明していただきました。4月28日の沖縄は雨でしたが、レース期間中の天候はそれ程悪くないだろうとの率先のよい予告でした。

パーティー会場の大会議室は、海に向って総ガラス張りの、天井が極めて高く明るい会場ですが、そこで繰り広げられたパーティーも大盛り上りました。

西銘沖縄県知事（代理）、親泊那覇市長、宜野湾市長（代理）、合崎第11管区海上保安本部長、その他多数の来賓の御出席をいただきましたが、御祝辞や力強い励ましのお言葉は、伝統ある沖縄～東京レースにふさわしいものでした。

沖縄は郷土芸能の盛んなところですが、アトラクションの奥ゆかしい琉球舞踊、勇壮な太鼓、コミカルな獅子舞は、パーティーの料理や泡盛の味と共に、御参会の皆さんのお胸に深くきざみこまれたことと思います。

いよいよ4月29日。天気くもり。宜野湾港沖には本レース参加の〈フジ〉〈月光〉〈ラッキーレディー〉〈おいどん〉の4艇と、地元艇7艇がスタートを待っています。本部船には城間、高峯、具志堅、琉大ヨット部の学生2人。刻々と時間が迫つて来る中で、報道のヘリコプターが低空で飛ぶ。正午12時、11艇がいっせいにスタート。南西の風10ノット、〈フジ〉の船足がやや速い。〈月光〉〈ラッキーレディー〉〈おいどん〉と続く。地元艇もかなり頑張っています。南へ喜屋武岬を回る本レースの4艇と、神山島を回航する地元艇とは那覇港沖を過ぎて次第に遠ざかって行きます。

案じていたスタートを無事にすませて、小笠原のレース本部に電話しました。これからあとは小笠原本部におまかせするわけですが、各艇の健闘と安全航行を祈りながら電話を終りました。

## 沖縄～東京(父島)レース実行委員長 東江正喜

5月6日、リタイヤした〈おいどん〉が元気に入港し、参加した全艇が父島の港にそろいました。各艇の

入港のたびに小笠原ヨットクラブの皆さん、安藤村長はじめ地元関係者のあたたかい出向えに胸がしめつけ

られる様な感激を覚えました。またスタートの地沖縄においても関係者の御協力で何のトラブルもなくスマーズな運営でした。参加者も忘れぬ思い出ができるのではと思っています。こうして全艇無事に返還2周年のお祝に花を添えることができ、御苦労なさった関係各位に厚くお礼を申し上げます。

#### 突然の実行委員長

今レースの諸準備について、整えつつあるそんなある日、帆走委員長の宮坂さんから電話がかかってきました。沖縄側の状況確認だろうと思っていたら、いきなり「実行委員長をやってくれ」とおっしゃる。どうしたんですか急に、これはもっとエライ人がやるべきですよ、16年の歴史と由諸あるこのレースの委員長をやるには私では若すぎます。それにクルーとして〈ふじⅢ〉にのせてもらうんじゃないですか、いろいろお断わりの返事をしたら、そんなことはいい、やりなさい、あとはムニヤ、ムニヤ。2日酔いの私の頭にはそれ以上断る理由をさがしきれない、あとはハイと小さな声

で引き受けてしまいました。後日、この重々しさに気が付きいろいろな場所で赤面するはめになったが、いい勉強をさせていただきました。城間支部長を中心に、沖縄支部会員の献身的な協力で無事任務をはたすことができました。ありがとうございます。

#### 〈ふじⅢ〉のクルーになって

第7回、8回とレース参加が出来なく、そのつど沖縄で運営の応援をして来ました。

レース艇を見送ったあの気持はもう耐えがたい淋しさというのか、むなしさというのか、みたび味わいたくない。宮坂さん何とか乗せてもらえないか、おそるおそるお願ひしたら、いつも簡単に引き受け下さいました。沖縄から私と保井、岡崎の3人がお世話になりました。今回学んだこと、経験したことを反省し、今後のレースに生かしていきたい。又、次の次、第11回目は沖縄の祖国復帰20周年にあたります。それにむけてこのレースがますます盛大になる様に皆さんの御協力をお願ひ致します。

## 沖縄～小笠原レース優勝〈月光V〉並木茂士

期待どおりのトロピカルセーリングのはずが、残念ながら雨模様のスタートになった。4月29日正午、宜野湾沖を南西約3ノットの微風の中、沖縄本島南端のキヤン崎へ向けスタートを切りました。

昨年末のグアムレースへの参加を、様々な事情から中止したため、〈月光V〉にとって、今回のレースは久方振りの外洋レースであった。当初、東京～小笠原レースを考えていたが、若手クルーの強い希望もあり、また、〈月光V〉自体、追い風より、上りに近い風向の方が早く、新しい艇に何とか走り負けないのではないかと考えました。沖縄～小笠原レースならば、多分、南東風か北東風の片止りになりそうなので、そんなに恥をかかないで済むのでは無いかと思い、廻航用員集めでは多少苦労しましたが、沖縄スタートに決めました。今回のクルーは、私以下、宮沢（会社員）、〈月光V〉にてトランスパックレース参加）、ハツ橋（自営、香港～マニラレース、東京～ハワイ往復廻航）、木内（自営、香港～マニラレース、ハワイ廻航、今回の油壺～沖縄、小笠原～油壺の廻航キャプテン）の3名と、野本（会社員）、芹沢（会社員）、新里（学生、A'cup クルー）、松下（学生）のワセダヨット部の後輩4名が加わり、計8名で乗り組みました。4月29日夕刻、キヤン崎を廻る頃より豪雨になり、沖縄放送のニュースでは、1時間の雨量が300ミリ以上降るとの事で、全員かくごしました。その雨の強さというのか、量の多さには驚かされ、この先何日、この雨中のレースになるのか、多少は不安を感じていました。以前にもこの海域を走りましたので、ロランCが不安定で、たよりにならない事がわかっていましたので、六分機

の手入れをして、大事に持てはきましたが、この天気では、まず、天測は出来ず、唯々ログメーターとコンパスだけが頼りではないかと思い、毎時間ログブックに正確にコース、風向、スピード、ログ等を書かせ、まず本島の南端より、北大東島の北10マイルを第1目標として、コースを引きました。理由はログメーターとコンパス（レース直前に壊われ、新しいのに付け換えたので）の正確度を確かめるため、5月1日の夜半に（今、ここにログブックを持っていませんので、確かな時間はわかりませんが）、北大東島の燈火を視認し、午前3時頃、島の真北6マイルと位置が出て、ログメーター、コンパス等が、大体正確である事がわかり、その後は、ヘッディングを、父島へ向け、なるべくまっすぐに走る様にしました。

5月3日、夜のロールコールで、〈ラッキーレディー〉との差が約40マイル、〈フジIII〉は〈月光V〉と〈ラッキーレディー〉の中間であり、「ヒョットすると」との考えがありました。クルーには言わず、「少しおくれているからがんばれ!!」また「明日のロールコールで、順位がハッキリするだろ」と言い、5月4日のロールコールを待ちました。24時間で〈ラッキーレディー〉との差は少しつめられ約36マイル、残りの距離からして多分、〈ラッキーレディー〉が5月5日の08:00～10:00頃にフィニッシュする事を考え、〈月光V〉との差、1時間に約2分20秒で、計算すると約7時間強有利、〈月光V〉が5月5日の13時頃にフィニッシュが出来れば、大金星になりそうなので、その事をクルーに話し、今夜からもう1日ガンバレば明日は、冷いビールと応援団の女子チームが待っている二

見港に入れると、最後のムチを入れました。最後の楽しみを残して、5月5日、14時37分にフィニッシュしましたが、その約1時間前より、記者、カメラマンを乗せたボートが走り廻っていましたので、勝った事がわかりましたが、なぜか私もクルーも無口で笑顔もつくれませんでした。多分800マイルを走り切った喜びと、つい先程迄の苦労を思い浮かべていたのではないかと思います。

その後、小笠原より帰浜しまして、会社やいろいろな会合に、また油壺へ行きますと、友人知人達から「オメデトウ」と言われる度に、参加艇の多い少ないにかかわらず、本当に優勝出来て良かったと心底より思えてきます。少ない参加艇にもかかわらず、立派なバー

ティを催して下さった沖縄のヨットマンの方々や、宜野湾マリーナの皆さん、特にキヤン崎を通過する迄見送って下さった海上保安庁の巡視艇の乗員の皆さん、レース中ロールコールで大変お世話になった三崎無線局の方々、本当にありがとうございました。

小笠原父島でのパーティー、長いヨット生活でもなかなか味わえない楽しい集りでした。パーティを開いてくれた父島の人々や、長時間海上で我々を待ってくれたコミッティーのヨットマンの方々、御苦労様でした。また次回も小笠原がフィニッシュになる様に皆んなで努力したいと思います。クルーの人数よりカップが多く頂ける、こんなレースに優勝出来て、非常に幸せです。

## 華の優勝の記 〈ハーフタイム〉朝河 清

第一回の小笠原レースに〈ガメラ〉で参加して以来、年を経る事10年、艇を替える事3回、〈エミリー〉の井本オーナーと組んで〈ハーフタイム〉という横山35で再挑戦し、やっと果した優勝という二文字を眺め楽しんでいます。

身分不相応の大金を費やし、週末ごとのハーバーがよいに家族親戚のヒンシュクを買い、じっと耐えたその報酬の二文字の意義を知るのはただ自分だけ。戦いすぎた後の虚無感に浸る今日このごろもあります。

小笠原返還20周年事業の一つとして行われたこの特別レースは従来の小笠原一東京と逆の東京一小笠原のダウンサウスがありました。

過去3回小笠原レースを経験した者から言わしていただければ、小笠原フィニッシュの瞬間はなにもまして感激でした。雨と雷と悪い波に翻弄され苦しめられた3日がすぎ小笠原フィニッシュ前のわずか半日の晴間の素晴らしさが、小笠原の海と空の碧さが総ての苦しみを忘れさせ、濡れたウェアを脱ぎすて、とつて置きのタンパン、Tシャツを身に着け、フィニッシュに備えた感激は生涯忘れられないものと思います。

乗員は年の順に紹介します。1番はなんと我がNORCの重鎮、清水栄太郎専務理事、参加者中最長老〈月光〉、朝河清〈ハーフタイム〉、日浦澄夫〈ハーフタイム〉、執行義信〈ベーシック〉、佐々木均〈シルフィード〉、市原英樹〈シルフィード〉、若井直樹〈リップル〉、松田修二〈ハーフタイム〉、という大混成チームでした。

この混成チームにもかかわらず優勝出来たという事実を以て、助っ人の方々の素晴らしさを御推察下さい。吐かなかつたのは今迄吐いた事が無いという清水さんと、もったいないから吐かないという市原君だけで後の者は2日程は食べては吐くという厳しい環境の中で、即席チームとはいえ全員良く頑張りました。

いつもはオーナーの特権を悪用して夜のウォッチを

パスするのですが今回は清水栄太郎さんがおられ、いつも元気にウォッチに出てこられるので私もさぼれず、若い人達の士氣にも良い影響を与えていただいたようでした。

レースの概要はスタートから低気圧のめだまが2つ待ち構え、更に前線がそこかしこに有るという状態で、常に30ノット前後の風が170度方向にある小笠原方向から吹いてくるという上りのレースでした。

最後の4日目の朝がたから風力が落ち、風向も南から西にふれ念願のスピンを張れ、前日のロールコールで30マイル先行されていた〈織姫〉に急追する事が出来た。10マイル後方には〈あづさ〉がその後には〈衣笠〉がいて油断出来ず、トップを行く〈風見鶏〉の動作も気になる。

最後までどの艇が勝つか予断を許さず、南から西にふれた事でわずかな勝機が出てきたと喜ぶが風力が落ちない事を祈った。

結果は〈風見鶏〉はフィニッシュ直前に北行する潮流に流され苦労をし、〈織姫〉も苦労して登りを稼いだ距離を南から西のふれで後続集団にしてやられ切歯扼腕した事でしょう。後続集団にも猛追されましたがなんとか振り切る事ができました。

フィニッシュした翌日には執行、佐々木、市原、若井、松田の5人は元気良くなつた1日のつかの間の休暇を楽しみ小笠原を後に出航しシーボニアへむかいました。

彼等の回航なしにはこのレースに参加は不可能であり、感謝にたえません。

最後になりましたが、小笠原復帰20周年実行委員会の方々、小笠原ヨットクラブの方々、小笠原村役場の方々の素晴らしいホスピタリティ、有難うございました。

Nippon

## CHALLENGE NEWS

## ベースキャンプOPEN

ニッポンチャレンジアメリカ杯1991委員会は、愛知県蒲郡市竹島埠頭に、ベースキャンプの設営を進めていましたが、この度、各方面のご尽力により、4月24日めでたく完成式を迎えることが出来ました。

事実上の船出ともいえるこの日、天気にも恵まれ、オープニングセレモニーはつつがなくとり行われました。

完成式には、海洋少年団110名が整列する中、関係者250名の参加を得、蒲郡消防音楽隊の軽やかなマーチ演奏で始まりました。

まず、山崎達光会長の挨拶、つづいてご来賓を代表して、蒲郡市市長、大場進様からご祝辞。

そして、本日のメインイベントであるテープカットには、取材陣数十名の見守るなか、ファンファーレの合図とともに、テープカットが行われました。

次いで、練習艇ニッポンJ-3、ニッポンJ-5、二隻にシャンパンをかけての出航式。艇上に並んだクルーに、地元海洋少年団の「基地完成を祝う。ガンバレニッポン、めざせ世界一」と、手旗によるうれしいエールが送られました。

式典後、ニッポンJ-5は10メートル以上の西風をセールいっぱい受け、お披露目セーリングを行うなど、ニッポンチャレンジアメリカ杯は、快調な走り出しを見せた1日でした。

### ワールドマッチレース第5戦 (ニュージーランド)

### シチズン・マッチレース シリーズ'88に参戦

シチズン・マッチレースは、マッチレースの公式シリーズ、ワールド8戦の中でも最もシビアなレースだといわれています。

このレースは、4月18日から25日までの8日間、ニュージーランドのオークランドで、各国から10チームが集まりホットな戦いを繰り広げました。

ニッポンチャレンジでは、南波誠をスキッパーに、クルーは松原仁、岡部清孝、吉沢一彦、谷路泰博、Stu Argo、Grant Spanakeの7名編成で参戦しました。

右表、シチズン・マッチレースの成績です。世界の壁の厚さ、マッチレースの厳しさなど、学ぶことの多かった戦いでした。



オープニングセレモニー、記念すべきテープカット  
左から小笠原蒲郡市議会議長、富田第5港湾建設局局長  
大場蒲郡市々長、山崎会長、江口副会長  
原田第4管区海上保安本部長、鈴木愛知県々会議員



成績	1位	John Kolius	USA	7勝2敗
	2位	John Bertrand	USA	7勝2敗
	3位	Chris Dickson	NZ	7勝2敗
	4位	Peter Gilmour	AUST	5勝4敗
	5位	Roy Dickson	NZ	5勝4敗
	6位	Eddie Warder-Owen	UK	4勝5敗
	7位	Brad Butterworth	NZ	4勝5敗
	8位	Greg Tawastjerna	CAN	4勝5敗
	9位	Chris Packer	NZ	2勝7敗
	10位	Makoto Namba	JPN	0勝9敗

## 第4回タカラブネレガッタ



須磨 YC 会長の江見氏

去る5月17~18日の両日、神戸須磨沖において第4回タカラブネレガッタが開催された。このレガッタは今から8年前の1980年、現NORC秋田副会長が須磨Y.Cの会長であった当時、米国シアトル市と神戸市が姉妹都市であるところから、両市の代表ヨットクラブであるシアトルヨットクラブと須磨ヨットクラブの姉妹提携を実行された。その時、日本から寄贈した銀のタカラブネトロフィーを争奪するタカラブネレガッタが成立した。

以後2年に一回お互のホームウォーターでレガッタが開催され今日に至っている。タカラブネレガッタは我国には数少ない国際クラブ対抗戦で、制式艇は同じ規格の艇が揃え易いところからJ24クラスが採用されている。レース形式は各チーム4艇ずつの8艇によるオリンピックコースレースとなっている。しかし、いわゆるチームレースの形式はとておらず、通常のブリートレースを6レース行い、そのレース結果からチーム優勝・個人優勝を決定している。

これは須磨Y.C側にチームレースの経験がなく、チームレースに長じたシアトルチームには全く歯が立たないために、変則的ではあるがフリートレースによる対抗戦となっている。もっとも、いずれの方法を取るにせよオリンピック選手、ワールドチャンピオンを擁するシアトルY.Cとローカルヨットクラブである須磨Y.Cとでは親と子、いや孫ほどの実力の差があることは事実であって、過去3回のレガッタも須磨Y.Cの完敗におわっている。

しかしながら、今回須磨Y.Cチームは昨年秋から予選2回12レースを実行し、また冬場における毎週のハードトレーニングなど、なんとか一矢報いたいとの気持ちは各艇とも強く過去にない盛り上がりをみせていた。

5月13日、シアトルY.C総勢46名は、TWA機で来日した。翌朝対面式が執り行なわれ、須磨ヨットハーバーに日米両国旗が翻った。15日は神戸祭ヨットレース、同ウエルカムパーティ等歓迎行事が盛り沢山に開

かれた。一方、タカラブネレガッタは16日にプラクティス17~18日に本レースが実施された。

5月17日タカラブネレガッタ当日、朝から風弱く本部船に掲げられたAP旗はいつまでも降りようしない。天気は良く日光浴には最高だが、レースにはならない。シアトルの連中も所在無げに浮いている。正午前クルクル回っていた風見が西を向き安定し始めた。11:39ついにAP旗降下。

11:50 2m/s 第1レーススタート。リミット付近で〈ツゲヤザー〉に乗るスチュワート・アーチャーと本部船側で永信氏の〈ハンギオーバー〉がリコール、アーチャーは即回り直したが〈ハンギオーバー〉は少しもたついた。最初に飛び出したのはマーク・ローラーの乗る〈キアズマ〉、やはり予想通り強い。しかし〈レディファースト〉に乗る己斐氏が健闘している。2番手だが風の振れを擱んで上マークをトップ回航、サイド・下と良く走ったが、第2下でマークにトップを譲ってしまった。このまま順位は変わらず1位マーク・ローラー、2位己斐、3位にはジョー・ウィリアムズの乗る〈JJ〉が入った。1, 3, 4, 6位USチーム、2, 5, 7, 8位Jチーム。

13:40 WSW 3.5m/s 少し風速が上がって第2レーススタート。今度は第1レースリコースのスチュワート・アーチャーがほぼ完璧なレース運びを見せて、トップ。USチームは上位3艇が秒差でフィニッシュラインに殺到し、実力をを見せつけた。Jチームは永信氏が4位に入ったのが精一杯で完敗だった。1, 2, 3, 5位USチーム、4, 6, 7, 8位Jチーム。

15:10 W 4m/s 第3レーススタート。このレースは須磨Y.Cにとって記念すべきレースとなった。タカラブネレガッタが始まって以来始めて須磨の艇がトップでフィニッシュラインを横切った。本部船から大きな喚声が上がった。ほんまに須磨の艇か?と言う声も聞かれた。己斐健一〈レディファースト〉1位。これが“まさか”の序曲であったとは、神のみぞ知る快挙ではあった。USチーム2, 3, 6, 8位、Jチー

ム1, 4, 5, 7位。

明けて5/18、朝から風は西5~6mと絶好のコンディション、2日目は艇差を無くすため船を乗り換えてのレース前日気を良くした須磨チームと実力実績を誇るシアトルチームとの戦が益々面白くなってきた。

10:10 SWW 6 m/s 第4レーススタート。ここで困ったことが起きた。2~3艇リコールめいた動きの中、ジョー・ウィリアムスの乗る〈レディファースト〉が戻らない。X旗を掲げたまま本部船には不安が過ぎる。見えなかったのだろうか。多少出遅れたとは言えジョーは快調に飛ばし、上マーク2位、第2上マークではアーチャーを抜いてトップに踊り出た。そしてフィニッシュライン。ホーンは鳴らない。唖然とした顔でコミッティを見ている。B旗が上がった。しかたがない、レース後審問することを伝えて英文の抗議書を渡した。

12:20 SW 4 m/s 風が南に振れて弱まってきたが、第5レーススタート。4レースの怒りか今度もジョーは好調。上マークで早くもトップ、2位マーク・ローラー。そして嬉しいことに〈JJ〉に乗る己斐氏がこれに続いた。前日まで1, 2位のアーチャーとプラットナーが5, 4位を走っているので、もしこのまま、或いは前に出れば総合2位となる。頑張れ己斐さん、期待違わずサイドマークでは2位に上がり、ジョーを追う。3位とは水があき、マッチレースの様相を見せてきた。テールツーノーズの戦いが続いた。しかしジョーはつけこむ隙を与える、ついにフィニッシュ。USチーム1, 3, 4, 5位。Jチーム2, 6, 7, 8位。

第5レース後、風は全く止ってしまった。時間はたって行くが、風は吹きそうもない。煙った海面をうらめしげに見まわすばかりだった。レース委員長の判断でL旗を掲げ、各レーサーに15:00までにスタートできない場合、第6レースはキャンセルする旨通告した。14:40そよよとした風を感じだした、南西の海面にはさざ波が見える、よしやろう。

15:00 SW 2 m/s 第6レーススタート。上マークは



プラットナーがトップ、2位は我らが己斐さん、3位に低迷していた津田氏が操る〈キアズマ〉が上がっててきた。あるかないかの風を拾いつつ静かなる戦いが展開した。コミッティにはタイムリミットも気になりだした。第2上マーク〈JJ〉がプレッシャーを跳ねのけトップに上がった。本部船も観覧艇も興奮の渦だ。あと少し、あと少し……。ついにフィニッシュ、観覧艇ではホーンが鳴り響き喚声と拍手が止まらない。本部船でも予想外の結果に放心状態だ。審問が残ってはいるがともかく全レースが終了した。抗議は直ぐ決着がついた。N君が撮っていたビデオにジョーのフライングが見事に写っていた。何度もビデオを見直していたジョーはOKと言って書きかけの抗議書を破いた。ここに全レースが決定し、シアトルチームのタカラブネレガッタ4連覇と己斐氏の個人総合優勝が確定した。

一次予選から半年、なんとか無事にレガッタを終えることができた。長いようで短い半年だった。これもひとえに関係各位の御協力の賜とこの紙面をお借りして深く感謝いたします。須磨フリート 岡田眞一



総合優勝の己斐チーム  
写真提供：須磨フリート

#### 4TH TAKARABUNE REGATTA RESULT 1988. MAY. 17~18 SUMA YACHT CLUB

SKIPPER'S NAME	1RACE 17 11:50 2m/s	2RACE 17 13:40 3.5m/s	3RACE 17 15:10 4m/s	4RACE 18 10:10 5m/s	5RACE 18 12:20 4m/s	6RACE 18 15:00 2m/s	overall result
Nick Blattner	6 6	2 2	2 2	2 2	4 4	3 3	2 19
Mark Laura	1 3/4	5 5	8 8	5 5	3 3	4 4	4 25.3/4
Stuart Archer	4 4	1 3/4	3 3	1 3/4	5 5	6 6	3 19.1/2
Joe Williams	3 3	3 3	6 6	PMS 8	1 3/4	5 5	5 25.3/4
Kenichi Koi	2 2	6 6	1 3/4	4 4	2 2	1 3/4	1 15.1/2
Shuji Eishin	8 8	4 4	5 5	3 3	6 6	8 8	6 34
Hiroaki Tsuda	7 7	8 8	7 7	6 6	7 7	2 2	7 37
Kazutoshi Kitamoto	5 5	7 7	4 4	7 7	8 8	7 7	8 38

CHAIRMAN OF RACE COMMITTEE: 松本富士也



「マリガランテ」がやってくる。コロンブスの「サンタマリヤ」を模したものだと聞く。「サンタマリヤ」の図面は現存しない。しかし入手しうるあらゆる資料をもとに再現したらしい。そこには学術的な価値さえ存しよう。メキシコで造られた。船匠はどうやらその企画に魂をうばわられた。船匠は船材探しに山林に分け入った。木々は見出されるのを待つために長年月成長し続けて来た。ある木はキールに、ある木はフレームに、ガンセルに、ビームに、外板に、それぞれの性格を見ぬかれ、ピタリとおさめられた。そんな入魂のまれな作業に周囲がだまっているはずがない。手伝いの民衆は300人にも達した。ボランティア、否、それぞれが魂をうばわれたのである。夢をかけたのである。御存知メキシコは超債務国、思うにまかせない。企画者アルサル船長と船匠は「海、人類、平和」団体のボランティアをつうじて各国によびかけた。我が国では野村信吾が一役買った。

何ヶ国かのクルーが、今日本に向っている。内、女性2名の日本人は武市美帆、渡辺美和。共に海上保安学校卒のプロの船乗り、まことにたのもしい。

全長45m、356総トンのガレオン船はやがて日本の海に勇姿を現す。さまざまな歓迎行事でにぎわおう。

マスコミにも大いにとりあげられよう。我々ヨット乗りも、海から迎えようではないか。聞けば鳥羽レースのスタートにも現れるらしい。なんとも楽しみな光景が想像される。日本側の受け入れ、主体は、社団法人フロンティア協会、理事長は他ならぬ大儀見薰である。これは無関心ではいられない。



# お待たせ!

## 第9回(1989)日韓親善ヨット レースのお誘い 玄海支部

何故かわかりませんが、アリランレースが近づくと張り切ってくるんです。九州と韓国のつながりは深く、一番近い外国でもあり、又18年前、大原敦初代支部長や先輩達が苦労を重ねて開拓した日本と外国を結ぶヨットレース、そうです!国際ヨットレースの元祖です。二年に一回という待遠しさもあるかもしれませんね。

さて、同時期にニュージーランド・福岡ヨットレー  
スが重なる事になりますが御心配なく。第一レグは、  
4月22日にオークランドをスタート、5月5日頃フィ  
ジイに入る事になりますが、このレグはオークランド  
のヨットクラブが受け持ち、玄海支部役員を含む福岡  
ヨットクラブが動きわるのは、グアム・福岡の第三  
レグで6月中旬頃になります。

アリランレースもすっかり軌道にのりました。国際  
レースは勿論の事国内でも同じですが、運営側の最大  
の悩みは泊地の確保だと思います。アリランレースも  
第七回(1985年)迄は大変でした。釜山港内の海洋大  
学の泊地に数珠つなぎにアンカーをとり、船で上陸し  
たり、また、うなぎの寝床の様な細長い狭い木材置場  
跡に入ったり…。まさに各艇のアンカリングの腕の見  
せどころでした。幸にも前回第八回(1987年)から、  
釜山オリンピックヨットハーバーの完成によりこの問  
題も完全に解消された訳です。

日韓親善ヨットレースですから多くの参加艇を期待  
している玄海支部ですが、参加資格条件をもうけてお  
りますので念の為。本部主催レースでも起きたケース  
でもあり玄海支部でも似た様な事があり困惑した事が  
ありました。勿論お断わりしましたが、韓国へ行きたい、  
一艇では不安なのでアリランレースに参加したい、  
しかしどのレースも出場しないパーティにも出ない、  
ホテルだけ予約して欲しい、だからエントリーをまけて  
下さい…なんです。ヨットレースですから、レース  
に出場しない艇は別行動して頂きたいと思います。主  
催者側の事故に対する責任の重さを御存知ない人達には  
困りますね。ヨットレースに意欲を燃やしている艇で、  
参加資格条件にかなっている艇は是非御参加下さい。  
来年は韓国からの参加艇も増える様で楽しいレー  
スになりそうです。

エントリー資格は次の通りです。

1987年6月以降、外洋レース(夜間帆走を含む)に  
出場経験のある艇及び乗員。

### 1. 玄海支部水域

- a. 1987年6月以降、玄海支部主催のオーバーナイ  
トレースに出場した艇。(1987年10月 大原杯、  
1988年5月 対馬レース、1988年10月 大原杯)

- b. 博多水域以外においては、しかるべきオーバーナイトレースに出場した艇。(済州島、鳥羽、ミキモト、ビッグボート等)
- c. NORC特別会員艇については、1987年6月以降のレース出場状況を考慮する場合もあります。
- 2. 玄海支部水域以外の艇については、NORC特別会員艇とします。

下記はヨットレーススケジュールです。

4月29日(土・祝)

10:00 受付 小戸ヨットハーバー

11:00 艇長会議

12:00 博多一対馬レーススタート

4月30日(日)

午前 厳原港外フィニッシュ

19:00 表彰式(厳原町)

5月1日(月)

09:00 出国手続開始

12:00 厳原港出港、西側の浅茅湾にて時間待ち

23:00 釜山へ回航開始

5月2日(火)

08:00 釜山港入港

5月3日(木・祝)

18:00 前夜祭(釜山市)

5月4日(木・祝)

09:00 出国手続開始

10:00 艇長会議

11:00 釜山一博多レーススタート

5月5日(金・祝) フィニッシュ後入国手続

5月6日(土)

17:00 表彰式(福岡市内)

出艇料:登録料 30,000円

非登録艇 50,000円

参加費用:現在、宿泊代の事で業者が交渉中ですが、  
オリンピック終了後に決定すると思いま  
す。尚費用は、厳原、釜山、福岡のパーティ  
代も含みます。

問い合わせ先:NORC玄海支部事務局 原田芳治

電話:午後は092-741-2413

夜間18:00以降は092-281-5877



## ぐるっと対馬・青潮レース

玄海支部 片倉静江

今年の大型ゴールデンウィークも西日本地方は、豪雨や強風にたたられ、恒例の博多どんたくも惨めなものでした。ヨットの場合、強風位なら気にならないのですが、バケツどころか風呂桶をひっくり返した様などしゃ降りには参りました。

さて、「ぐるっと対馬・青潮レース」も残念ながら一周レースを締め、ポイントレースに変更しました。西水道海域の状況が極めて悪く、レース実行委員長で海上自衛隊対馬防備隊司令官でもある長嶺さんの判断により、巖原港をスタートして東水道での24マイルレースを行いました。出場艇10艇中、9艇が完走、《カラコルム》は残念ながらRET。往路、スピングジブホイルの継ぎ目にかみこんで、開かず、おりず、風をはらんで危険になり「ひきちぎれ！」と三人の野郎がぶらさがっても破れず。最近のスピングジブホイルですね。

対馬は、国定公園指定20周年を祝う行事が目白押しで、西側にある風光明媚な浅茅湾内では「ふなぐろ」と呼ばれる12人のりの手漕ぎ船のレースやディンギーレース等もあり、その他舞踊大会、歌謡大会、大変な賑わいでした。ディンギーレースには博多からの遠征組もエントリーして、対馬組と大熱戦！



5月4日表彰式場にて  
きれいどころ（！）にかこまれた  
長嶺司令官（対馬防備隊）

いつもの事ながら町役場をはじめ各市町村、漁協、対馬セーリングクラブ、警備隊の対馬防備隊、海上保安部等々、全く息のあった協力体制は羨ましい限りです。海の幸、山の幸も豊富、島の人達はおだやかで明るくて、また、美人が多いのにも驚かされます。色白で影りが深く、目が大きい日本人ばなれした顔立ちの女性が多いですね。

さあ、来年はアリランレースです。またこの素晴らしい対馬を訪れる事になります。西山寺の田中節孝和尚さんもそれまで正業にはげんで下さい。町の皆さんもごゆっくりお休み下さい。いただいた5キロの鯛、御馳走様でした。美しい貝で作られたカップも大事に飾っております。本当にいろいろとありがとうございました。

(レースが予定より1日早く済み、表彰式を待たずに出港した艇がありましたが、いろいろと事情はありますようが、主催側の御苦労にこたえるためにも、せめて一人位は表彰式に出席させて欲しかったですね)



豪華なべっ甲の帆船を受けとる優勝艇〈ピクニック〉の原田事務局表



#### 感謝状を受ける末松支部長



→ 1700年の歴史を持ち、田代和生著「書きかえられた国書」(中公新書)にも登場する名刹「西山寺」



## 青潮レース成績

- ① ピクニック (F S 32)  
 ② ヴァンガード (V D O 36)  
 ③ DR HIRO (E D 30)  
 4 LADY K (K I H 30)  
 5 キャプティース (V D F 30)  
 6 麻里絵 (V D O 41) ファーストホーム  
 7 CITY BOY (X 40)  
 8 ブルー コスモ (Y A 26)  
 9 カム カム (Y A 26 C)  
 10 カラコルム (D O U 30) (R E T)

5月3日(火)11:00スタート。本部船はもちろん海上自衛隊の掃海艇!豪雨。スタート後雨足は弱まったものの突風を伴う南東の風12~14m, その後次第に弱まり9~10m。全艇博多からの遠征組で、対馬の名艇〈きたたき〉は本部の仕事が忙しく、残念ながら不参加。トップ艇16:05フィニッシュ、最終艇17:15フィニッシュ。スピンドルやセールを破損した艇数艇。

この度、片倉さんから我々 off shore 編集委員に対する励ましのお言葉をいただき、本当にありがとうございました。より内容の濃い、そしてより楽しい off shore 誌を目差していくので、これからも片倉さんの楽しい原稿をお待ちしております。編集委員一同

## ケンウッドカップ・ナショナルチーム 決定!

6月8日委員会を開催、次のとおり選考しました。

### 1988ケンウッドカップ

ナショナルチーム選考委員会  
(拡大国際小委員会)  
委員長 大儀見薰

\*ナショナルチーム BLUE チーム(第1チーム)

SLEEPER  
海太朗  
TOGO X チームキャプテン 山田  
摩利支天(予備艇)

\*ナショナルチーム RED チーム(第2チーム)

KARASU  
MATE NROW  
青海波 チームキャプテン 清田  
美美(予備艇)

\*NORC チーム

美美 チームキャプテン 金井  
美帆  
TOGO X

\*上記3チームのほかに油壺ベイヨットクラブチームとして

摩利支天  
青海波  
SLEEPER  
が、編成されています。

\*上記4チームのほかに、次の艇が個人エントリーをしています。

NINJA  
CHAMPOSA V  
カトマンドゥ

\*なお、クラブチームには、予備艇は認められていな。また、エントリーフォームに記載された所属クラブ以外のクラブチーム名によるチーム編成は認められていない。

## ジャパンカップ オフショアシリーズ 実行委員長小林義彦

[開催地]

熱海

[開催期日]

10月6日(木)7日(金) インスペクション  
10月8日(土) 第1レース10:00オリンピックコース  
10月9日(日) 第2レース10:00オリンピックコース  
10月10日(月) 第3レース10:00ショート・オフショア  
10月15日(土) 第4レース10:00オリンピックコース  
10月16日(日) 第5レース10:00ロング・オフショア  
10月22日(土) 表彰式(東京・予定)

[参加資格]

I.O.R. 21 ft 以上 70 ft 以下  
ORC-3 NORC-B

[参加費]

クラスI ..... 70,000円(パーティ一派9名を含む)  
クラスII ..... 60,000円(パーティ一派8名を含む)  
クラスIII ..... 50,000円(パーティ一派7名を含む)  
クラスIV ..... 40,000円(パーティ一派6名を含む)  
クラスV ..... 30,000円(パーティ一派5名を含む)  
(次の事前登録費10,000円を含む)

[参加申し込み]

(事前登録)

7月29日(金)17:00 NORC本部  
所定の書類に記入の上、プログラムに掲載する艇の写真、プロフィールを添えて下さい。(10,000円)  
(最終登録)

9月30日(金)17:00 NORC本部

④乗員制限については重量制限を採用します。

VHF を推奨備品とします。

実施要領の詳細については次号でお知らせ致します。

# Sometime SHONAN YACHT FESTIVAL 1988

クラスI(68艇)		
艇名	順位	
SUMMER GIRL	1	
SUEKO	2	
SUPPER EROS	3	
NOSIDE	4	
RIKI	5	
PENELOPE 2	6	
STRAY CAT	7	
Popey	8	
KUMBHIRA	9	
IBIZA	10	
OLIVE 3	11	
HYOTTOKO 4	12	
SYLPHY	13	
MAKI	14	
TINKLE 2	15	
ADRIAN	16	
WEATHER REPORT	17	
めるへん	18	
SEA LADY	19	
HAYATE IV	20	
Bel Mami IV	21	
SEA BLUES	22	
風小僧 3	23	
SHUTTLE 4	24	
All Hands II	25	
WILD ROVER	26	
Tanguera	27	
BOW WOW	28	
BOY'S	29	
CHIKO	30	
Sekito	31	
Ladies First	32	
雪風	33	
Linne	34	
R-35	35	
HIUO	36	
湖族の末裔	37	
Vent Blanc	38	
TRACER	39	
ALFAR	40	
PELL MELL	41	
風見鳥	42	
HOI & HOY	43	
SCIROCCO	44	
VICTORY III	45	
FROG V	46	
グルマ	47	
BON VIVEUR	48	
ムーンレイク	49	
安清丸	50	
龍三世	51	
Mrs.T	52	
MUSE 3	53	
KAZIRI	54	
飛翔	55	
MAGIC WAND	56	
ENDLESS LOVE	57	
Sirius	58	
KAZU III	59	
Eddy	60	
TAKO	61	
Fairlady Valentien	62	
Atlantis	63	
風林火山	64	
酒天童子	65	
Floating Tokury	66	
Jupiter	D.N.S	
TENACIOUS	D.N.S	

クラスII(61艇)		
艇名	順位	
ミス・クローバー	1	
PURPOSE VII	2	
TWIN CAM	3	
Agnes	4	
OASIS	5	
SUPER SPIRIT	6	
CREEK	7	
Heart Cocktail	8	
ORUKA II	9	
TWILIGHT	10	
STRAWBERRY II	11	
ONE NAUTA	12	
ELEVEN-PC	13	
AKVAVIT	14	
Fire Bird IV	15	
Dejave	16	
Noah	17	
AITA PEA PEA III	18	
WINDS EXPRESS	19	
ATOM	20	
CREEK MAGIC	21	
Wonder Boy	22	
Non Troppo	23	
NAVIGATOR	24	
SNOBBY CONNECTION	25	
MARIUS	26	
ESPERANZA	27	
ANDROMEDA II	28	
MITAMURA	29	
VAN GUARD II	30	
MIYAKO II	31	
Andy	32	
PURPOSE 7	33	
ATALANTA	34	
Lamb	35	
PICK	36	
Wind Vogel	37	
風の魔術師	38	
MISS MINNIE	39	
COOL BOYS II	40	
Ledy Madonna	41	
和子	42	
EROS	43	
WONDER OZ	44	
FREEDAM	45	
MOKOMOKO	46	
V.S.O.P	47	
FLYING FLUKE	48	
NON NON	49	
アルダスU	50	
Marilyn I	51	
KUKAMITSU	52	
Lip Stik	53	
Off	54	
CAVATINI II	55	
Aeolus	56	
Miss Tow	57	
Third Lady	58	
WHITE FAMIRY	D.N.S	
HONEY	D.N.S	
順風II	D.N.S	

クラスIII(46艇)		
艇名	順位	
PECKER II	1	
I am III	2	
LITTLE ISLAND	3	
MAXIM	4	
SIVA	5	
LAKE RUNNER	6	
樂浪	7	
あずさ	8	
DIMENSION II	9	
Floating House	10	
魔女II	11	
PHUKET	12	
Mr.Lady	13	
S.C	14	
NICE MAITE	15	
POW RIVER II	16	
POLESTER	17	
Revenger	18	
JUBILATION	19	
LOKKY	20	
Darkhorse II	21	
しじみ	22	
NADESIKO	23	
NEPTUNE II	24	
マイニッシュン洋海民族	25	
ENDLESS	26	
KOYOU	27	
Anna	28	
FURAIBOW I	29	
ANNA	30	
LITTLE WING	31	
醉虎	32	
Bi Bi	33	
QUEEN TERU	34	
FAIRY III	35	
Seirus	36	
OPEN SESAME	37	
レスボアール	38	
DONGURI	39	
JUNG FRAU	40	
OCUTAVIA II	41	
ぱてひやこ	42	
CESSNA	43	
ARTEMIS II	D.N.S	
SHINRIKI II	D.N.S	
NEREID	D.N.S	

クラスIV(47艇)		
艇名	順位	
JOKER IV	1	
POISSON ROUGE	2	
MUAMUA	3	
SAYURI	4	
TOMOHIRO	5	
Happiness	6	
SKY ROCKET	8	
Mola Mola	9	
Hiwind NU	10	
IMP	11	
BOSTONIAN	12	
Star dast	13	
Petit TAKO	14	
海貴族 II	15	
SHINDY III	16	
ELANVITAL	17	
PETIT TOMATO	18	
Kent & Maki	19	
HERO	20	
SUN DENTAL	21	
かぐや姫	22	
ZAKU ZAKU	23	
ABC	24	
Miss TAKO	25	
PATRICIAN	26	
MARIE	27	
SAYU	28	
TETCHY	29	
PUMPKIN	30	
TIILTIL MITIL	31	
TAKO Sprits	32	
YUKI III	33	
ALPHARD	34	
翡翠	35	
MICHIKO	36	
LEAK STAR	37	
MADONNA II	38	
La Lumiere	39	
Lake Road	40	
NEWTON	41	
TRY III	42	
BIG WAVE	43	
NIGHT TRACER	D.N.S	
SUBARU	D.N.S	
LIEBE III	D.N.S	
	28	D.N.S

クラスZ(07艇)		
艇名	順位	
Saron DE Eve	1	
ADVENTURE	2	
TAN TAN II	3	
NOAH III	4	
MAMIGO	5	
悟空	6	
The Potato	7	

ヒロシマカップ'89オーシャンヨットレース  
ハワイヒロシマ  
インターナショナルオーシャンヨットレース



ヒロシマカップ'89オーシャンヨットレース記者発表  
4月16日；於広島グランドホテル

ハワイから広島へ、4000マイルにわたる壮大な国際ヨットレース“ヒロシマカップ'89オーシャンヨットレース”がNORC主催で来年開催される。米国ハワイのホノルル沖を6月18日（現地時間）に出発。宮島大鳥居前に設定するゴールまで、50艇（出場予定）が競うもので、来年の広島市制・広島築港各百周年、広島ホノルル姉妹縁組30周年を記念して、更に、来年7月8日から始まる“'89海と島の博覧会ひろしま”に花を添えるイベントとして、日本外洋帆走協会西内海支部（岩田行史支部長）と広島ヨット俱楽部が昨年春から準備を進めていたもので、4月16日、広島グランドホテルにて記者発表された。

《レースの概要》

64年6月18日、ハワイ・ホノルル沖を出発。タイムリミットを8月11日（レース期間55日間）として広島・佐伯郡宮島町の宮島大鳥居前特設ゴールまで競う。所要日程は約20～40日、表彰式は7月16日、“'89海と島の博覧会ひろしま”メインステージにて行なわれる。

《参加要領》

☆クラス分け

1) レーサーとクルーザーの2クラスを設け、それぞれを全長によりA、Bとに分ける。

○レーサークラス

A：全長13m以上の艇

B：全長10m以上13m未満

○クルーザークラス

A：全長12m以上の艇

B：全長10m以上12m未満の艇

2) 参加艇をいずれのA・Bに入れるかは主催者が最終的に決定する。

☆レーティング

本レースでは、レーサークラスはIORレーティングを基本とする。クルーザークラスはA・B別のスクラッチ方式とする。

《参加資格の概要》

- 1) 参加艇は2人以上が乗艇のこと。
- 2) 艇は完全な復元力を有するモノハル艇で全長が10m以上の完全な耐航性を持った艇であること。バラストキールは固定されていること。
- 3) 参加艇には、本レースの帆走指示書並びに特別規則により修正されるORC特別規則カテゴリーOを適用する。ORC特別規則は、1989年に有効であった条文を用いる。
- 4) スキッパーはスタート時点で18歳以上であること。また、外洋での500マイル以上の無寄港航海を行ったことがあり、1989年6月11日までにその航海を立証すること。
- 5) すべての参加艇は1989年6月11日までにアラワイポートハーバーに到着し、レース委員会によるインスペクションの用意をしておくこと。
- 6) エントリーの国籍はスキッパーの国籍とする。
- 7) 参加艇はスポンサーを受け資金援助を受けてもよい。但し広告に付いては別途規定による。
- 8) ウィンドベン・オートパイロット及びあらゆる電子航法機器の使用を認める。但し電子航法機器とオートパイロットの連動は認めない。
- 9) 出場艇の枠は先着50艇までとする。

《締め切り》 64年3月10日

《申し込み・問い合わせ先》

〒730 広島市中区大手町3丁目1-7香川ビル3F

「'89海と島の博覧会協会事務局内

「ヒロシマカップ'89オーシャンヨットレース」

実行委員会

☎082-242-1114(内線26)

実行委員長：有田一郎

事務局長：井岡裕昭

'88 RCCミッドサマーフェスティバル

ひろしまカップ宮島ヨットレース

昨年お茶の間にヨット施風を吹き込んでいただいた「RCCミッドサマーフェスティバル・ひろしまカップ宮島ヨットレース」を今年も海事思想の啓蒙、ヨットの普及・認識の向上、ファミリークルージング派にもレースを楽しんでいただく目的と HIROSHIMA-CUP '89 OCEAN YACHT RACE (ハワイ・広島国際ヨットレース) のプレイベントとして7月23・24日に開催いたします。

## 開催要項

主 催／社団法人日本外洋帆走協会西内海支部  
広島フリート

共 催／株式会社中国放送（通称 RCC）

協 賛／株式会社安芸グランドホテル

ヤマハ中国株式会社

大野町

社団法人広島県モーターボート競走会  
舵社

ヨッティング

広島ヨット俱楽部

財海と島の博覧会協会

後 援／宮島競艇施行組合

株式会社永和

ノースセール

フッドセール

1. 開催期日／7月23日(土)～7月24日(日)
2. レース海域／宮島鳥居前～宮島水道
3. 参加資格／クルーザーヨット全般  
(但し法定検査済の艇でレース委員会の  
認めた艇)

4. 参加艇数／先着100艇

5. 適用規則／国際ヨット競技規則及び帆走指示書による

6. 乗員規定／最低乗員一成人（20才以上）2名以上  
7. 参加申込／1987年7月15日迄に申込書に参加料を添えて申し込む

8. レース区分／レーシングクラス  
クルージングクラス

9. 適用レー／NORC クルーザーレーティングを使用  
ティング 未取得艇はレース委員会が決定する。

10. レース方法／1レースの成績をもって各クラスの総合順位を決定する。表彰は各クラスごとに行う。

11. 宿泊希望者／広島フリートとしては、安芸グランドホテルをおすすめします。

予約は、直接同ホテルへ申込み願います。  
安芸グランドホテル  
予約専用電話 0829-56-1717  
シーズン中ですので広島フリートとしては部屋の確保はしていません。ご予約はお早めに、満室の時はあしからず

12. 係留場所／申込後当広島フリートから係留地指定を行ないます。

13. 申込・問合せ先／社団法人日本外洋帆走協会西内海支部  
広島フリート

〒734 広島市南区宇品海岸1-11-21

チャートハウス内

TEL 082-251-9262

## OFFSHORE

## 江ノ島一清水レース出艇申告、艇長会議

と

## 鳥羽パールレース連絡会議会場について

場所：虎ノ門パストラル（東京農林年金会館）

港区虎ノ門4-1-1

交通：地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩2分

虎ノ門 NORC から徒歩10分

時間：18:30～19:00 江ノ島一清水レース出艇申告

19:00～19:30 クラブ 艇長会議

19:30～21:00 鳥羽パールレース連絡会議

尚、off shore 誌5月号の鳥羽パールレース実施のお知らせの中に連絡会議は7月8日19:00～、場所：NORC本部とありますが、上記のように変更になりましたのでお間違のないようにお願い致します。また、その記事の中で、削除がでましたのでお詫びと共に訂正させていただきます。削除の部分は次の通りです。

○ Bコースのクルーザーレーティングクラス  
1艇30,000円（予定）

○欠席の場合は出艇取消しとみなします。

誠に申し分けありませんでした。 会報小委員会

「PCオーシャンヨットクラブ」の発足および  
NORC各支部会員各位へのお願い

森下 一義

私は昭和49年に NORC に入会以来、名古屋、神戸、静岡、東京と転勤して回り、現在は世田谷に居住して伊東に非登録艇を係留している一会员です。

実はこの度、パソコン通信ネット PC-VAN に SIG 「PC オーシャンヨットクラブ」を開設し、SIGOP（シグオペ）として主宰していくことになりました。

PC-VAN は NEC がサポートする日本最大のパソコン通信ネットで、現在の会員数は約4万人、このところ年率50%の勢いで伸びています。SIG というものはその中で、あるテーマについて共通の関心を持つ者が集まってメッセージを寄せ合い、情報交換するボード（掲示板）です。営利性はありません。

私としては長年の NORC の会員として、このメディアを通して少しでも海事思想の普及に努めたいと考えています。

つきましては NORC 各支部で実施されるレース結果の速報をやりたいと思います。これまで、オフィシャルか月刊誌が出るまでどうなったのか判らない状況でした。この速報が始まれば貴重な存在になるはずです。

将来は各支部からオンラインで入力してもらえるようになるでしょうが、当面はこちらから問い合わせます。どうかよろしくご協力下さいますようお願い致します。

ooooooooooooooo

## 計測委員会よりのお願い

レース参加艇のオーナー各位。

レース直前になってセールを新調したり、トリムを変更した場合、レーティング証書の変更がそのレースに間に合わない場合があります。

『せっかく、新しいセールを作ったのに!』という声が聞えてきますが、計測を受け直し、そのデータをもとに計算し、計測証書を発行することになり、どうしても時間が必要です。

少なくともレースの2週間以前に本部にデータが到着するよう、メジャラー(セールメジャラーを含む)とよく相談して、実行して下さい。

*from HAYAMA*

葉山マリーナヨットクラブ主催の葉山町長杯レガッタの結果は右表の通りです。

同クラブは、NORC クルーザーレーティングを用い下記のレースを予定しております。

月	行事日	予備日	行 事 名	主 催
8	28日(土)	9/4(日)	サンタクロースレガッタ	HMYC
9	18日(土)	25日(日)	コンチネンタルカップ第1戦 (株葉山マリーナ)	
10	1~2日	15~16日	第2回初島レース	HMYC
	10日(日)	—	えはし岩越航レース	NORC葉山フリート
	16日(日)	23日(日)	コンチネンタルカップ第2戦 (株葉山マリーナ)	
11	27日(日)	12/4(日)	'88年度最終レース	HMYC

また同クラブは下記の要領でクルージングランデーを行ないます。

くわしいお問合せは、葉山マリーナ、渡会さん(0468-75-7485)か〈デルフィナ〉の田中さん(045-701-1000)にどうぞ。

「真鶴サマークルージング」へのおさそい

昨年は、熱海で行ない多数の参加艇で賑わいましたサマークルージングを、今年は、真鶴で下記の要領で行ないます。

日付: 7月23日(土)出発。夜はバーベキューパーティ。

7月24日(日)帰港。

宿泊施設: 「入船」旅館

料金: お一人様 ¥4,000 (素泊)

入浴料: ¥500

参加料: ¥1,000 (1人)

是非ご参加下さい。

## '88 葉山町長杯レガッタ

1988.4.10 風速 I 距離 7.0マイル  
スタート 10:50:00 レース委員長 田中 一美

艇名	順位
アズーラ	4
アデレード	11
アドニス	30
アミスタッド	5
ワインズ	15
エボニー III	8
海援隊	6
海太朗	①
枯野	26
ギブソン	17
コアラ	23
コスモス	31
コンドル	28
魁 II	7
スケジュール	18
スターボードJr	24
サマーレディ	22
ゼアドラー	③
青海波	②
タック III	13
デルフィナ II	19
テン	21
とね	25
トップライナー	16
ナルビック	27
ハイドンセット	10
バーミリオン	9
はやて	29
ホビーホーク	14
ユニコーンV	12
ローランサン	20

# 大島ランデブー

今年また、恒例となっております NORC 横浜フリート主催の第15回大島ランデブーを8月13日(土)に、伊豆大島、波浮港にて開催致します。今年は15回とひとつつのふし目にあたりますので、特に盛大に行ないたいと思います。

波浮港の一夜を、ふだん都会では目に耳にできない“大島ご神火太鼓”や“おどり”を皆様にご披露致しますので奮ってのご参加を、お待ちしております。

NORC 横浜フリートキャップテン  
橋本 博

1. 日 時 昭和63年8月13日(土)

2. 集合場所 伊豆大島波浮港

3. ハイ時間 8月13日(土) 16:00

4. 大島ランデブー 8月13日(土) 18:30~21:00

パーティー 波浮港

5. 参 加 費 1名につき ¥3,000  
女性、子供 ¥2,000

6. 申し込み締切 8月6日(土)

7. 主催者及び申し込み問合せ場所  
横浜市神奈川区神之木台11-21

日本外洋帆走協会 横浜フリート 橋本 博  
TEL 045-401-1630(橋本)045-253-2917

8. 現地本部 大島波浮港 森喜葉局  
TEL 04992-4-0050

尚、当日毎年恒例になっています、大島の中学生を対象としたヨット教室を今年も10:30~13:00まで行ないます。ヨット教室に協力できる艇は、艇の大きさや波浮港入港予定時間等を連絡して下さい。

又、油壺~波浮港のヨットレースも予定しています。多数の参加、よろしくお願ひ致します。

## 新登録艇の紹介

セール番号、艇名、帆装、フリート、全長×水線長×巾×吃水、オーナー名、その他の順  
☆印は会友艇

3863 PEARL STAR FS-29 須磨 880×700×290  
×170 来田勉／共同オーナー：来田弘、宇田川泰広、入江恵資、湯浅寛司／艇名の由来：1982年1号艇進水の1カ月位前にメンバーと艇名を何とするかとあれこれと迷っていたところ、ラジオのFMから石川セリのパールスターという唄が流れて来て「これでエエやんか」ということで特に意味はありません。／抱負：無理せずマイペースで出場出来るレースには出たいし、年2回はクルージングにも行きたい。とにかくメンバー全員で休日を楽しく過せる様、活動したい。／クルー：ヨットはイイヨ～、女性にもてて、もてて…等とオーナーにだまされた友人及び弟の独身5人組／NORCへの要望：関西水域を起点としたギンギンレーサーばかりじゃなく私たちのようなフネも出て楽しいロングのレースを開催してほしい。

2553 ニューポート Y30S II 大阪・北港 8.98  
カワタイツオ／艇名の由来：1983年アメリカロードアイランド州ニューポートを訪ねた思い出とヨットを持ったことによって出会ったクルーたち人間仲間が創り出す新しい世界は見知らぬ新しい港ニューポートに寄港した新しい発見とよろこびがあることの想いを込めて名付けた。／抱負：とにかく海好きの仲間と共に海を味わいたい。

3006 Born Free V デヘラー38 沼津重須ヨットハーバー 11.8×9.6×3.8×2.0 佐藤泰一郎／共同オーナー：深尾一郎、平生進一、神野洋明、大多和正樹、柿沢正治、橋本英男、植月晴夫、渡辺英一郎、増池俊和、小竹一彦、小川誠一、小川寛、丸山公一／艇名の由来：Born Free as free as a wind blows. (野生のエルザ主題歌) =風の様に自由に生まれ、生きていく。我々、中年オジサンサラリーマンセーラーの憧れを託して Born Free と名付けました。／抱負：一昨年の沖縄レース優勝で火がつき、昨年の小笠原レース、今年の東京一小笠原レースと連休を利用して長距離レース連続出場をさらに続けていきたい。目標はフジⅢのヨットライフです。／クルー：麻布高校卒業生を中心とした仲間で中年サラリーマンおいそが氏ばかり。お盆のクルージングと連休のレースが皆んなの生きがいです。／NORCへの要望：泊地問題への提言をどんどん行なって欲しい。日本のオーシャンヨットナショナルオーソリティークラブとして昨今のリゾート構想による全国のマリーナ計画に積極的に参画し、ヨットマンの為のマリーナ作りを指導していただきたい。

OFFSHORE 第159号 昭和63年6月15日発行

毎月1回15日発行

昭和52年7月21日 第三種郵便物認可  
1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会  
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)  
電話・東京03(504)1911-3 〒105

郵便振替番号 2-21787

印刷 正進社印刷株式会社

昭和  
52年6月  
21日発行  
(毎月1日発行)  
第三種郵便物認可  
北欧のクラフトマンシップが生んだ  
世界のファーストクラス。

# The BALTIC **35**

世界の男達を魅了し続けるBALTIC YACHTS。

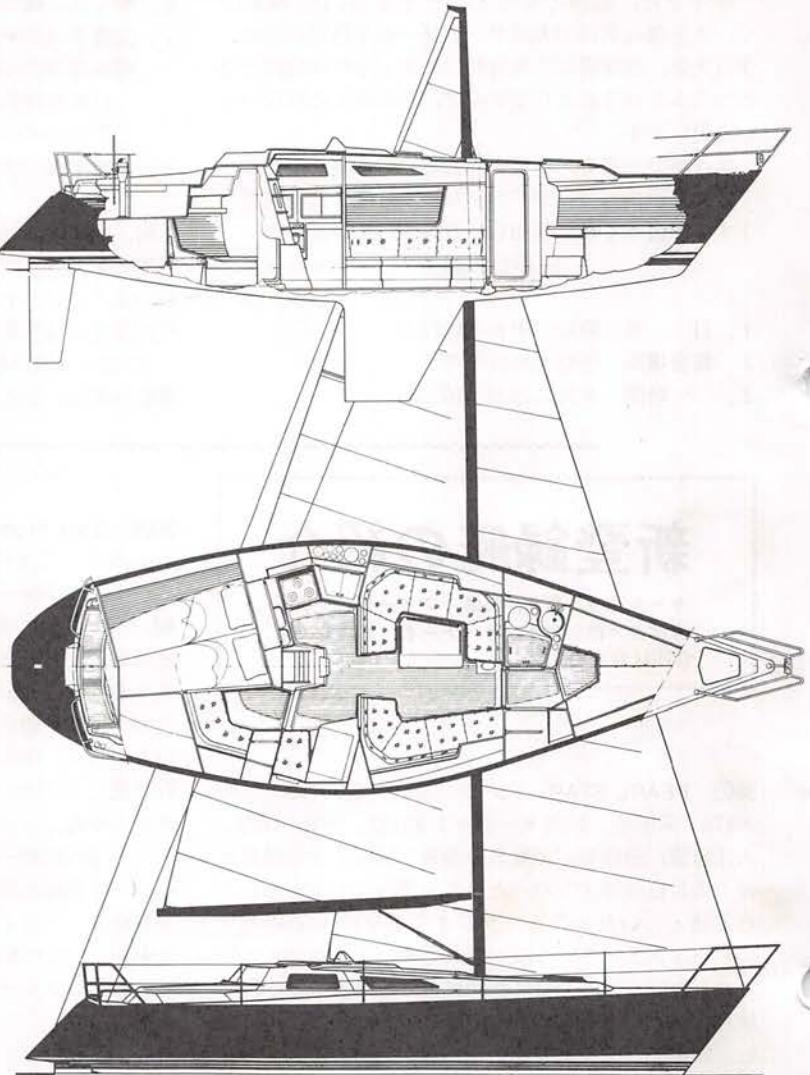
その最高峰のテクノロジーと北欧のこだわりが、この艇のすみずみにいたるまで息づいています。徹底的に練りあげられた居住性、操作性、そしてあくまでも華麗なハーライン…。I.O.R.デザイナー、ユーデル・ヴォローリックが手がけた走りの正統、NEWバルティック35。

## 軽量、そして優れた耐久性。

厳選されたマテリアルと独自の工法により、40%の軽量化、150%のハル強度を実現(G.R.P.製同型艇比)。コストか品質かという選択では、断固として後者を優先させる。決して妥協を許さない「質」へのこだわりから生まれた確かな手応え。走りの喜びを余すところなく味わえ、乗る人を選ぶスタイルヨットです。

## MAIN DIMENSIONS

L.O.A.....	approx.	10.64m	34.90ft
L.W.L.....	approx.	8.75m	28.70ft
Beam .....	approx.	3.50m	11.48ft
Draft.....	approx.	1.85m	6.07ft
Displacement	approx.	4,480kgs	9,877lbs
Ballast.....	approx.	1,880kgs	4,145lbs
I.....	approx.	12.45m	40.85ft
J.....	approx.	3.85m	12.63ft
P.....	approx.	12.65m	41.50ft
E.....	approx.	4.55m	14.93ft
I.O.R. Rating	approx.		25.7ft



東京・大阪税込み ベースプライス ¥34,000,000

Design : Judel/Vrolijk & Baltic Yachts



お問い合わせ、資料請求先は

バルティックヨットジャパン(株) 〒531 大阪市大淀区中津6丁目7-18 Tel.(06)454-3881 Fax.(06)454-3888 Tlx.J64980 東京オフィス・香港オフィス

・フィンランド : P.O.Box2320,SF-6855 Bosund Pietarsaari Finland Tel.(9)67-83070 Fax.(9)67-83216 Tlx.7562 yachtst